

ブロモクリプチン錠 2.5 mg 「フソー」

【この薬は？】

販売名	ブロモクリプチン錠 2.5mg 「フソー」 BROMOCRIPTINE MESILATE TABLETS 2.5mg
一般名	ブロモクリプチンメシル酸塩 Bromocriptine Mesilate
含有量 (1錠中)	2.5mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」(<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>)に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、パーキンソン症候群治療剤、高プロラクチン血症治療剤（麦角（ばっかく）製剤）というグループに属する薬です。
- ・この薬は、ドパミン受容体に作用することにより、プロラクチンや成長ホルモンの過剰な分泌を抑え、末端肥大症・下垂体性巨人症、乳汁分泌、排卵障害、下垂体腺腫の臨床症状を改善します。
- ・この薬は、ドパミンの濃度を高め、ドパミンの脳内の神経伝達を増強することでパーキンソン症候群の症状である手足のふるえ、筋肉が硬くなる、動作緩慢、歩行障害などを緩和します。
- ・次の病気の人に処方されます。

末端肥大症

下垂体性巨人症

乳汁漏出症

産褥性乳汁分泌抑制

高プロラクチン血性排卵障害

高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置を必要としない場合に限る）

パーキンソン症候群

- ・この薬は、体調が良くなったと自己判断して使用を中止したり量を減らしたりすると、病気が悪化したり、悪性症候群（高熱、汗をかき、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばりなど）や薬剤離脱症候群（無感情、不安、うつ、疲労感、発汗、疼痛など）などの症状があらわれることがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にブロモクリプチン錠「フソー」に含まれる成分または麦角製剤で過敏症のあった人
- ・妊娠高血圧症候群の人
- ・産褥期高血圧の人
- ・心エコー検査により心臓弁尖肥厚、心臓弁稼動制限およびこれらに伴う狭窄（きょうさく）等の心臓弁膜の病変が確認された人、または過去にこれらの病変が確認されたことのある人
- ・授乳中の人

○次の人は、慎重に使う必要があります。飲み始める前に医師または薬剤師に告げてください。

- ・下垂体腫瘍が大きくなり、視力障害などの著明なる末端肥大症（先端巨大症）の人または下垂体性巨人症の人
- ・下垂体腫瘍が大きくなり、視力障害などの著明な高プロラクチン血性下垂体腺腫の人
- ・妊娠または妊娠している可能性がある人
- ・肝障害のある人、または過去に肝障害があった人
- ・消化性潰瘍のある人、または過去に消化性潰瘍のあった人
- ・レイノー病の人
- ・精神病の人、または過去に精神病になったことがある人
- ・心血管に重篤な障害のある人、または過去に心血管に重篤な障害があった人
- ・腎疾患の人、または過去に腎疾患のあった人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

○乳汁漏出症や高プロラクチン血性排卵障害の治療のためにこの薬を飲む場合は、飲み始める前にトルコ鞍(あん)の検査(下垂体腺腫の有無)が行われます。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
通常、成人の飲む量および回数は次のとおりです。

〔末端肥大症、下垂体性巨人症に使用する場合〕

1日量	1～3錠
飲む回数	1日量を2～3回に分けて食直後に飲みます

〔乳汁漏出症、産褥性乳汁分泌抑制、高プロラクチン血性排卵障害、高プロラクチン血性下垂体腺腫に使用する場合〕

	初期量	維持量
1日量	1錠	2～3錠
飲む回数	1日1回夕食直後に飲みます。	1日量を2～3回に分けて食直後に飲みます

〔パーキンソン症候群に使用する場合〕

	初期量	維持量*
1日量	1/2または1錠	6～9錠
飲む回数	1日1回朝食直後に飲みます	1日量を3回に分けて食直後に飲みます

* 1～2週毎に1日量として1錠ずつ増量して維持量を決めます。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

悪心(吐き気)、嘔吐、めまい、低血圧、起立性低血圧(立ちくらみ)、頻脈(動悸など)、傾眠・嗜眠(刺激がないと眠ってしまう)、昏眠(意識の消失、刺激に全く反応しない)、幻覚(実際には存在しないものを存在するかのように感じる)、発熱があらわれることがあります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、使用を中止し、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

【この薬を服用する全ての方に共通】

- ・ 著しい血圧低下、前兆のない突発的睡眠(突然の耐えがたい眠気)、傾眠(刺激がないと眠ってしまう)がみられることがありますので、自動車の運転、機械の操作、高所作業など危険を伴う作業をしないでください。
- ・ この薬を飲むときには、血圧、血液学的検査等が行われることがあります。
- ・ 社会的に不利な結果を招くにもかかわらずギャンブルや過剰で無計画な買い物

を持続的に繰り返したり、性欲や食欲が病的に亢進するなど、衝動が抑えられない症状があらわれることがあります。患者さんや家族などの方は、医師からこれらについて理解できるまで説明を受けてください。また、これらの症状があらわれた場合には医師に相談してください。

- ・長期間服用する場合は、定期的に一般的な婦人科の検査が行われます。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。なお、高プロラクチン血症性排卵障害の人で、使用中に妊娠が判明した場合は、ただちに医師に伝えてください。
- ・母乳が出にくくなるため、授乳を希望する人は医師に相談してください。
- ・アルコール飲料はこの薬に影響しますので、飲酒は控えてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。
- ・この薬の減量、中止が必要な場合は、徐々に減らす必要があります。急激な減量又は中止により、悪性症候群（高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばりなど）を誘発することがあります。また、この薬を含むドパミン受容体作動薬の急激な減量又は中止により、薬剤離脱症候群（無感情、不安、うつ、疲労感、発汗、疼痛など）があらわれることがあります。自己判断でこの薬を急に減量または中止しないでください。また、これらの症状があらわれたら医師に相談してください。

【産褥性乳汁分泌の抑制に使用する場合】

上記内容に加えて以下の点に気をつけてください。

- ・氷罨法(氷のうなどで乳房を冷やす)などの補助的方法を併用することがあります。
- ・特に飲みはじめの時期に、血圧上昇、頭痛、中枢神経症状(めまい、倦怠感など)などがあらわれることがあります。このような症状があらわれたら直ちに医師に相談してください。

【視野障害のあるプロラクチン産生下垂体腺腫に使用する場合】

上記内容に加えて以下の点に気をつけてください。

- ・視野障害のあるプロラクチン産生下垂体腺腫の人は定期的に視野検査が行われます。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、直ちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
急激な血圧低下 きゅうげきなけつあつていか	脱力感、めまい、ふらつき、立ちくらみ、気を失う
起立性低血圧 きりつせいていけつあつ	脱力感、めまい、ふらつき、立ちくらみ、気を失う
悪性症候群 あくせいしょうこうぐん	高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばり、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、脈が速くなる、呼吸数が増える、血圧が上昇する
胸膜炎 きょうまくえん	胸の痛み、発熱
心膜炎 しんまくえん	体がだるい、発熱、息苦しい、息切れ、動悸、胸の痛み、むくみ
胸膜線維症 きょうまくせんいしょう	咳、胸の痛み、息苦しい、息切れ
肺線維症 はいせんいしょう	咳、息切れ、息苦しい、発熱
心臓弁膜症 しんぞうべんまくしょう	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重の増加、動悸
後腹膜線維症 こうふくまくせんいしょう	腰痛、背中での痛み、下肢のむくみ、尿量が減る
幻覚 げんかく	実際には存在しないものを存在するかのようを感じる
妄想 もうそう	根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない
せん妄 せんもう	軽度の意識混濁、興奮状態、幻覚、妄想
錯乱 さくらん	注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない
胃腸出血 いちょうしゅっけつ	吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、腹痛、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
胃・十二指腸潰瘍 い・じゅうにしちょうかいよう	吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、腹痛、胃がむかむかする、黒い便が出る
痙攣 けいれん	顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にぼーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
脳血管障害 のうけっかんしょうがい	突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしにくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐、突然のめまい、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる

重大な副作用	主な自覚症状
心臓発作 しんぞうほっさ	しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ、冷汗が出る、失神
高血圧 こうけつあつ	頭痛、肩こり、めまい、動悸、息切れ、顔のほてり、体がだるい
突発的睡眠 とっぱつてきすいみん	突然の耐えがたい眠気

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、脱力感、ふらつき、体がだるい、発熱、むくみ、疲れやすい、体重の増加、高熱、汗をかく、体のこわばり、顔や手足の筋肉がぴくつく
頭部	失神、めまい、立ちくらみ、気を失う、頭痛、ぼーっとする、一時的にぼーっとする、意識の低下、実際には存在しないものを存在するかのように感じる、注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない、軽度の意識混濁、興奮状態、突然の耐えがたい眠気、根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない、突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然の頭痛、突然のめまい、幻覚、妄想
顔面	顔面蒼白（そうはく）、顔のほてり
口や喉	咳、吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、突然の嘔吐、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる
胸部	しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ、動悸、息切れ、息苦しい、胸の痛み、呼吸数が増える
腹部	腹痛、胃がむかむかする
背中	腰痛、背中の痛み
手・足	手足が冷たくなる、手足のふるえ、脈が速くなる、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、下肢のむくみ、突然片側の手足が動かしにくくなる
筋肉	肩こり
便	黒い便が出る、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
尿	尿量が減る
その他	血圧が上昇する

【この薬の形は？】

PTP シート	
形状	白色の素錠（割線入り） 
直径	7.1mm
厚さ	2.3mm
重さ	120mg
色	白色
識別コード	D K 025

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ブロモクリプチンメシル酸塩
添加物	乳糖水和物、トウモロコシデンプン、ヒドロキシプロピルセルロース、フマル酸、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ダイト株式会社 (<https://www.daitonet.co.jp>)

販売会社：扶桑薬品工業株式会社 (<https://www.fuso-pharm.co.jp/>)

研究開発センター 学術室

電話：06-6964-2763

受付時間：9:00～17:30（土、日、祝日を除く）